

平成28年度 連携・協力事業の実施状況について

教育課題研究専門部会

【プロジェクト名】 教師力・学校力向上に資する実践研究

1 プロジェクトの目的・概要

佐賀県教育センターの研究の質の向上を図るとともに、教育センターの研究成果を有効に活用して、佐賀大学教員養成課程における教員志望学生の育成の充実を図ることを目的として、連携・協力事業として「教師力・学校力向上に資する実践研究」に取り組む。本プロジェクトを通して、佐賀県の教師力、学校力の向上に資することとする。取組としては、教育センター研究調査事業で取り組んでいるプロジェクト研究等に対して、佐賀大学文化教育学部教員による専門的な見地からの助言を受けるとともに、教育センター研究成果の佐賀大学教員養成課程の講義等での有効な活用を図る。

2 28年度の実施状況（平成29年1月6日現在）

(1) 組織

教育センターで平成28年度に取り組んだ研究と連携した佐賀大学教員

教育センターの研究	研究担当所員	連携する佐賀大学教員	
授業改善	小学校国語	小旗 浩徳 他1名	教育学部学校教育講座 教授 達富 洋二
	中学校国語	浜上 知子 他1名	教育学部学校教育講座 教授 達富 洋二
	小学校算数	新 真一 他1名	大学院学校教育学研究科 准教授 米田 重和
	中学校数学	江口 賢一 他1名	大学院学校教育学研究科 准教授 米田 重和
	小学校理科	松尾 天 他1名	教育学部学校教育講座 教授 世波 敏嗣
	中学校理科	高取 照秋 他1名	教育学部学校教育講座 教授 世波 敏嗣
	中学校英語	日吉 敬子 他2名	教育学部学校教育講座 教授 田中 彰一
小・中学校特別支援教育	伊東 一義 他4名	大学院学校教育学研究科 教授 日野 久美子	
中・高等学校家庭	納塚 真紀子他1名	大学院学校教育学研究科 教授 岡 陽子	
小学校特別活動	中武 友子	教育学部附属教育実践センター 准教授 中村 尚志	
小学校人権・同和教育	白水 佳奈子	教育学部学校教育講座 教授 松下 一世	
中学校美術	塚原 康之	教育学部学校教育講座 教授 栗山 裕至	
高等学校国語	山口 信介	教育学部学校教育講座 教授 達富 洋二	

(2) 連携計画

月	研究の段階	連携方法・内容	
		教育センター	佐賀大学
4月	問題提起・課題設定をする	研究要項作成	【教師力・学校力向上に資する実践研究】
5月	研究の方向性を策定する	研究計画策定	①御挨拶・今後の日程調整等
6月			②研究の方向性の説明
7月			研究の方向性についての助言
8月	実践する	実践 検証授業	③検証授業参観等の案内 (参観・参加・助言)
9月			※佐賀大学教員の検証授業参観等については、研究担当所員よりメール等を通じて案内する。
10月			④成果・課題(Web原稿等)の提示
11月	研究をまとめる	実践結果の分析・考察 Web等の作成	まとめや次研究への助言
12月			
1月			
2月	成果と課題を分析する	次研究に向けた調査・分析	
3月			

教育センター研究成果の
有効な活用
(講義等)

(実施総数)

- ア メールまたは電話による報告、連絡、相談を行う。(H27:62件→H28:224件)
- イ 教育センターが実施する検証授業または研究委員会に佐賀大学教員が参加する。
(H27: 8回→H28:21回)
- ウ 所員が佐賀大学を訪問し、助言を受ける。(H27:11回→H28:16回)
- エ 連携する佐賀大学教員から資料等の提供を受ける。(H27: 2回→H28:20回)
- オ 連携する佐賀大学教員が教育センター研修講座の講師を務める。
(H27: 1回→H28: 9回)
- カ 教育センター所員が佐賀大学の授業で講話を行う。(H27: 1回→H28: 1回)

(成果)

- 研究内容や研究の妥当性について、連携する佐賀大学教員から理論的、専門的な助言を得たことで、研究の方向性が明確になり研究内容が質的に向上した。これにより、教育センター研究担当所員及び研究委員にとって、有用な研修の場となっており、研究に向けた意欲へとつながっている。
- 連携を図ることができた佐賀大学教員数は、昨年度比で3名増となり、実施総数は、5つの項目で昨年度を上回っている。特に、連携する佐賀大学教員からの資料提供を受けた回数が10倍、連携する佐賀大学教員を講座の講師として招聘した回数が9倍、メールまたは電話での報告、連絡、相談件数が、3.6倍になっている。
- 佐賀県教育の課題解決に向けた実践研究を通して、教育センター所員と佐賀大学教員とが佐賀県の教師力、学校力の現状についての共通理解を図ることができている。
- 検証授業の参観の際、今年度も佐賀大学の学生への指導の一環として、学生の参加があった。学生に学校での実際の授業イメージをもたせ、教職に関する学生の意識の変容を促すことで、教員志望学生の育成に資することができた。
- 佐賀大学教員の協力を得ながら開催している「サタセン(教育センターが主催する土曜日の自主研修)」がある。教育センター所員及び参加した県内の教員の資質向上につながっている。

(課題)

- 4、5月の早い段階から、教育センター研究担当所員が佐賀大学教員に教科等の本質的な助言を受けたいという要望がある。
- 教育センターの研究成果を有効に活用して、佐賀大学教員養成課程における教員志望学生の育成を図るといった側面での取組については、今後も充実を図る余地がある。

3 今後の予定等

- 現在、教育センターでは、今年度の研究成果を3月にWebにて公開するため、コンテンツを作成している。その過程で、佐賀大学教員から作成したコンテンツや次年度の研究内容について助言をもらうことになっている研究委員会がある。
- 今年度、様々な研究委員会で効果的な連携を図ることができた。来年度も、佐賀大学教員の助言を受け、研究の質の向上に努めたいと考えている。是非、本連携事業を継続してほしいと考えている。